

# 地域鉄道の再生、活性化

## ～ 「くま川鉄道」 「JR肥薩線」の街～

— 第3回 地域鉄道の再生・活性化等研究会 —



平成24年10月

人吉市役所  
久本一富・嶋川智尉



# 鉄道が地域に「愛される」ための条件とは

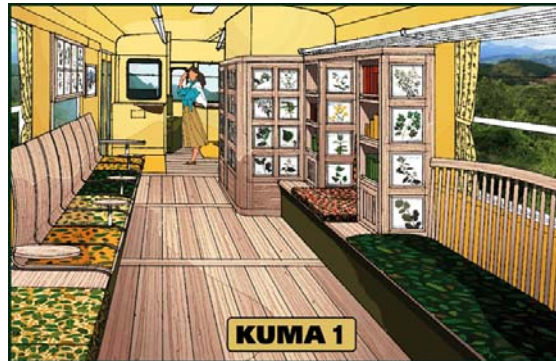
少子化、車社会化で運賃収入は下がる一方で、莫大な設備投資は抑えられず、経営は傾くばかり。これは、全国のローカル鉄道、特に第3セクター鉄道の共通の課題。しかし、よほどの観光路線でない限り、鉄道事業で黒字経営を目指すのは困難。そうであれば、採算性の重視よりも、むしろどれだけ地域に「愛される」鉄道になれるかを目指すべきである。 ※個人見解



## 1. 鉄道車輛は、地域の顔であり、地域の個性をPRできる重要な空間である。



2009. 4. 1  
運行開始



- くま川鉄道は、人吉・球磨地域の「森林に囲まれた山深い奥地」という特徴を活かし、老朽化した車輛を改装。深緑色を基調とした外装、木のぬくもりを感じられる内装に仕上げ、快適な空間に（KUMA1・2）。
- 全旅客の8割を占める通学定期の高校生は、観光客という外からの視線も考慮されたKUMA1・2に対しては、イタズラすることなく大事にし、学生時代から一流の空間を体感させておくことは、教育上の効果も大きい。



## 2. 旅行等のワンストップ窓口は、定期外の旅客にとって重要な「顔」である。



くま鉄の本社は、人吉駅から細い路地を入った不便な場所に立地し、JR九州の倉庫並びの一角に存在。現場の事務所・詰所というイメージ。

H2年度に旅行業を開始するも、受付窓口は本社内にあり、様々な現場の業者も立ち入りしていたため、地域や観光客の顔といえる状態にはなっていない。



JR人吉駅の横の空き地に、「くまたびゲストハウス」を新設。人吉ブラウンを基調とした配色と木のぬくもりを感じることができる。毎日9:30～18:00営業。

2012. 2. 4  
オープン

鉄道事業部門から旅行業部門を切り離し、専門スタッフを配置。旅行業部門の黒字化を目指す。地元高校の卒業生等を新規採用し、社内の新陳代謝も促進。



## 3. イベント列車は、採算度外視の「特別感謝祭」で丁度よいぐらいである。



カフェトレイン



列車の運転体験



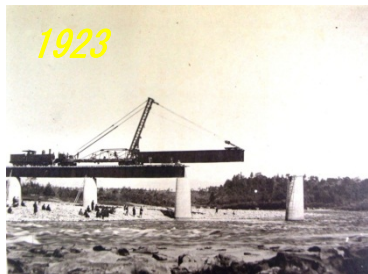
ビール列車（夏季25回程度）

車社会の中、地域住民にとって、鉄道やバス等の公共交通は非日常的な空間であり、最初に乗るまで高いハードル。現行価格3,900円／名（純利益700円程度）は高すぎる。

「感謝祭」に鑑み、往復運賃1,000円は差し引いて、2,900円／名以下の価格が妥当では。



## 4. 鉄道施設は、鉄道や地域における重要な「歴史の語り部」である。



1923



1924



2012



2012



1908



2012



1909



2012

球磨川第4橋梁（くま鉄）  
鉄道省×西松工業所

湯前駅舎（くま鉄）  
鉄道省×西松工業所

球磨川第1橋梁（JR肥薩線）  
帝国鉄道庁×間組

矢岳第1隧道（JR肥薩線）  
内閣鉄道院×鹿島組

## 5. 鉄道OBによる経験談は、鉄道の魅力をいっそう高めてくれる。

- 人吉鉄道観光案内人会。平成20年4月の「SL人吉」復活に先立つこと2ヶ月、100年の歴史を誇る肥薩線の魅力について経験談を交えながら観光案内し、後世に伝えていこうと、元国鉄のOBが集結。機関士、機関助手、軌道、建築、土木、電気、駅員など、専門職の垣根を越えた組織は、全国的にも極めて異例。
- 2011年12月26日、同会の活動が顕彰され、日本ユネスコ協会連盟主催の「未来遺産」に登録決定。





## 6. 地元住民による地道なボランティア活動こそ、鉄道への愛情表現である。



JR肥薩線・大畑駅では、地元集落により「大畑駅を愛する友の会」が結成され、木造駅舎の清掃・飾付、植樹、物産展など、様々なボランティア活動を実施。会長の池田幸男さんは、年6回、駅舎周辺の草刈りを行い、11年間継続。「集落の高齢化により、家から出ないお年寄りも多いのが心配で、外に出て全国の若い人から元気をもらってほしかった」と結成当時の思いを語る。



JR肥薩線・矢岳駅では、往年のD51形蒸気機関車が地元集落により大切に管理され、「矢岳SLガンバトル会」による地元の特産品も販売。また、人吉鉄道観光案内人会のボランティア活動により、長年その存在を忘れ去られていたSL給水塔を竹林の中で発見。さらに、ホームに台座だけ残されていた朝顔鉢を構内の藪中で発見し、集落住民と一緒に復元。

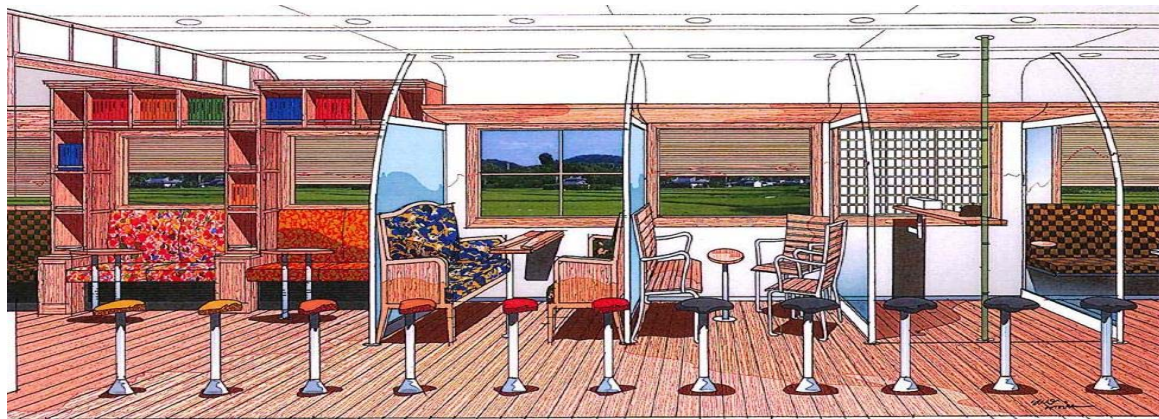
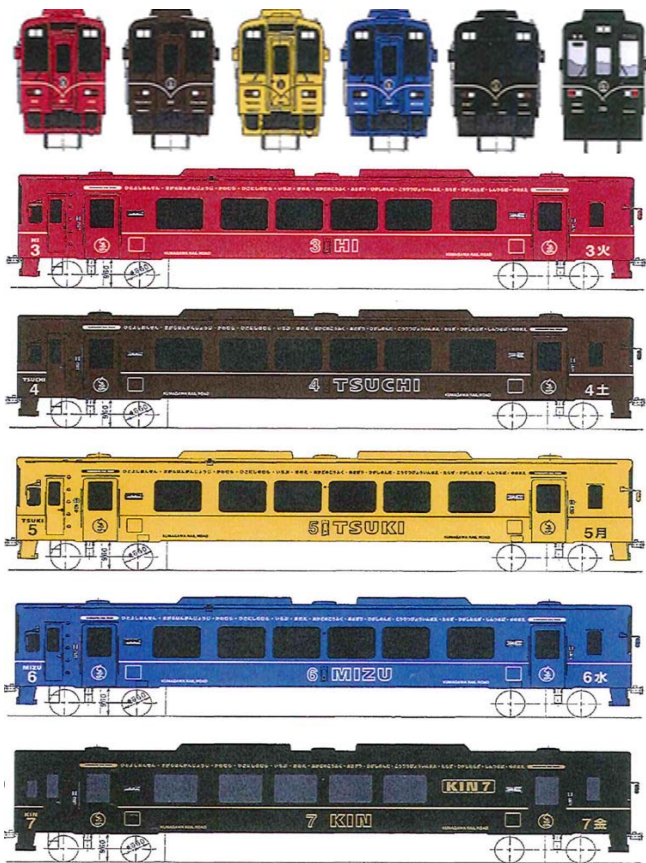


# 今後、「上下一体」で鉄道施設の付加価値を

## 《戦略1》 上物設備への付加価値

くま川鉄道においては、車輛の老朽化に伴い、平成25・26年度にわたり全て新型5車輻に更新。地域の生活路線として「より快適な空間」を提供し、定期外のお客様からも「乗ってみたい」と感じていただくため、人吉・球磨地域の「田園」を基調にしたデザイン車輛にしていく方針。

※イメージ図





## 《 戦略2 》 下物設備への付加価値

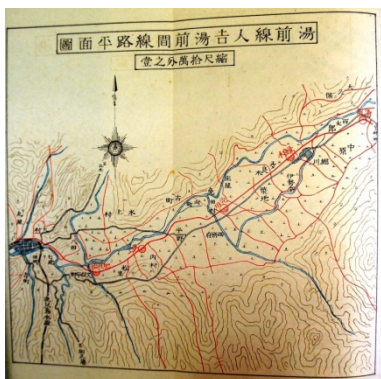
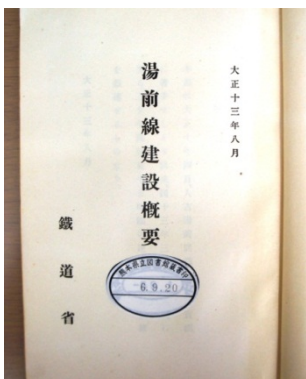
くま川鉄道においては、車輛更新が完了する予定の平成26年度が、**鉄道省湯前線時代からの開業90周年**に当たることから、木造駅舎や橋梁など、開業当初の姿を残す沿線施設の数々について、**国の文化財へ登録することを目指していく方針**。**地域の文化振興・観光振興に寄与する狙い**。

文献調査

図面調査

現場調査

登録申請



「湯前線建設概要」  
大正13年8月 鉄道省

「人吉ー湯前間平面図」

大正13年 鉄道省  
横河橋梁製作所製作

国登録有形文化財プレート

### 若桜鉄道 (23件)

旧国鉄・若桜線を引継ぎ、鳥取県等が出資する3セクで運営。9駅19.2kmで、全国で初めて様々な施設を一体的に文化財登録。



### わたらせ渓谷鐵道 (38件)

旧国鉄・足尾線を引継ぎ、群馬県等が出資する3セクで運営。

#### 貸切列車で行く 沿線38施設が登録！ 登録有形文化財めぐりツアー

わたらせ渓谷鐵道では、平成20年7月に登録された上神橋駅舎に引き続き、今年9月に多くの駅舎・トンネル・橋梁などが国の登録有形文化財に指定されました。これを記念して、ガイドの文化財めぐりツアーを行います。貸切列車などで旅行してゆっくりご覧いただきます。ツアーに参加しなるとじっくり見られない文化財もあり、必見です。

旅行日 平成21年12月13日(日)

参加費 大人2,000円 小学生1,100円 (当日現金)

オプションで、吾河橋水俣東部見学コースと足尾歴史館見学コースがあります。  
各コースの費用は1,300円(中学生以下半額、高校生以下1/2程度)。

### 天竜浜名湖鐵道 (36件)

旧国鉄・二俣線を引継ぎ、静岡県等が出資する3セクで運営。



### JR四国 (19件)

JR土讃線(香川県)で、積極的に登録中。

